

1 概要

- 4日、キンテーロス制憲会議議長がボリッチ大統領に対して新憲法草案を提出。同草案承認是非を問う国民投票に向けて、政権与党左派会派、連立与党中道左派会派は党として承認の立場の一方で、右派「共和党」、中道右派会派及び中道「みんなの党」は不承認の立場を表明。
- 1日、ボリッチ大統領はゼレンスキー・ウクライナ大統領と電話会談を行い、ウクライナに対する連帯を表するとともに、ロシアのウクライナ侵攻を巡る国際非難を支持するチリの意思を表明。
- 8日、チリ外務省は安倍元総理の逝去に係る弔意声明を発出。
- 20～21日、ウレホラ外相は第60回メルコスール首脳会合に出席するためパラグアイを訪問。メルコスール諸国との経済関係を強調しつつ、太平洋同盟とメルコスールの関係強化プロセスを進展させていく関心を強調。

2 内政

(1) 感染症情報

ア 26日付チリ保健省発表の新型コロナウイルス変異株累積報告件数は以下のとおり。

(ア) 懸念される変異株(VOC)

デルタ株(B.1.617.2):4万635例(変異株全体の40.8%)

ベータ株(B.1.351):73例

ガンマ株(P.1):7,030例

アルファ株(B.1.1.7):576例

オミクロン株(B.1.1.529):3万4,399例(変異株全体の34.6%)

以下、オミクロン系統

(BA.4):1,662例

(BA.5):852例

(BA.2.12.1):751例

(BA.2.13):10例

(BA.2.11):3例

(イ) 注目すべき変異株(VOI)

ラムダ株(C.37):1,742例

ミュー株(B.1.621):2,790例

イ サル痘

保健省は8月2日までにチリ国内で報告されたサル痘感染者は累計で91名となった旨発表。死者は報告されていないものの1名が入院中。なお、感染者は18歳から58歳の男性のみ。

(2) 制憲議会の閉会

ア 4日、キンテーロス制憲会議議長がボリッチ大統領に対して11章及び経過措置の388条から

成る合計178ページに上る新憲法草案を提出。式典は簡素かつ穏便に進捗した。同閉会式終了後、メディアに対して各関係者から様々な意見が表明された。ソト下院議長(与党中道左派「民主主義のための党(PPD)」)ら中道左派会派関係者の他、セプルベダ制憲議会副議長代行(与党急進左派「共産党(PC)」)も国民が新憲法草案の改善を望むのであれば、(同案が承認された後に)議会を通じた新憲法改正手続きも可能であると言及した。一方で中道右派会派「Chile Vamos」の関係者らは「新憲法草案は取り返しがつかない急進的なものである。中道右派所属制憲議員は常に対話の準備があったが、その大半は実現しなかった。同案は大半の国民のためのものではない」と述べた。

イ 国民投票に向けた各政党・会派の立場は以下のとおり。

(ア)与党左派会派「尊厳承認(AD)」:承認

(イ)連立与党中道左派会派「民主社会主義連合(SD)」:承認(ただし、「社会党(PS)」、「急進党(PR)」、「民主主義のための党(PPD)」の一部党员らの中には不承認の立場をとる人もいる)

(ウ)野党中道左派「キリスト教民主党(DC)」:承認(ただし、フレイ元大統領や一部の上院議員ら指導者層にも不承認の立場をとる人もいる)

(エ)中道「みんなの党」:不承認

(オ)中道右派会派「Chile Vamos」:不承認

(カ)右派「共和党(PREP)」:不承認

(3)新政権及び国民投票に関する世論調査

ア 「Pulso Ciudadano」(7月下旬)

(ア)ボリッチ大統領の評価

評価する:29.5%

評価しない:57.7%

わからない:12.8%

(イ)9月の新憲法採択に係る国民投票

承認する:30.1%

承認しない:46.0%

わからない:13.4%

イ 「Cadem」(7月第4週)

(ア)ボリッチ大統領の評価

評価する:37%

評価しない:56%

どちらでもない:2%

わからない・無回答:4%

(イ)9月の新憲法採択に係る国民投票

承認する:38%

承認しない:48%

わからない: 14%

ウ 「Criteria」(7月)

(ア)ボリッチ大統領の評価

評価する: 35%

評価しない: 54%

(イ)9月の新憲法採択に係る国民投票

承認する: 36%

承認しない: 45%

まだ決めていない: 19%

エ 「Panel Ciudadano/開発大学(UDD)」共同調査(7月24日)

9月の新憲法採択に係る国民投票に関して、

承認する: 38%

承認しない: 50%

わからない: 12%

(4)南部治安情勢

ア 政府は軍を動員して治安維持活動にあたるための非常事態宣言をアラウカニア州及びビオビオ州の2州4県に対して発令しているものの、治安維持活動は主要幹線道路に限定している他、ロス・リオス州における林業施設等を対象とする放火襲撃事件も増加傾向にあるところ、野党は同宣言対象地域を拡大するよう政府に要請している。

イ 昨年7月に生じた先住民過激派組織CAMの構成員が軍警官に殺害される事件から一年が経過する中で、同組織による林業関連施設等を標的とする報復事件が繰り返し発生。7月は暴力事件による死者は生じていないものの、CAMは本年11月に活動開始から25周年を迎えること及び政府が同組織に対する捜査を強化すると発表したこと等から、今後更に活動を強化していく可能性が指摘されている。

3 外交

(1)ボリッチ大統領とゼレンスキー・ウクライナ大統領の電話会談

1日、ボリッチ大統領はゼレンスキー・ウクライナ大統領と電話会談を行い、ウクライナに対する連帯を表するとともに、ロシアのウクライナ侵攻を巡る国際非難を支持するチリの意思を表明した。また、ゼレンスキー大統領に対して、人道分野においてチリが支援できる旨表明した。

(2)ウレホラ外相の西訪問

6月29日～7月1日、ウレホラ外相はスペインを訪問し、同国企業家、在スペインチリ人との会談を実施。1日にはアルバレス西外相とバイ会談を実施し、二国間アジェンダの他、地域及び国際情勢に関して協議した。同バイ会談実施後に両外相はフェミニズム外交政策(Politica Exterior Feminista)に係る協力覚書に署名。

(3)チリ外務省による安倍元総理逝去の弔意声明

8日、チリ外務省は日本時間同日に逝去した安倍元総理に以下の弔意声明を発出した。「チリ政府は安倍晋三日本国元総理の逝去に対して深い弔意を表するとともに、同元総理のご家族、日

本政府及び日本国民に対する最大限の哀悼の意を伝達する。チリは決して正当化することのできない、このような暴力事件を最も強い言葉で非難するとともに、価値及び共通の原則に基づく歴史的な深い友好関係を有する友好国の日本国に対して弔意及び連帯の意を表明する。安倍晋三元総理はチリにとり偉大な友人であった。2014年に当国を訪問した際には、両国の将来に向けたアジェンダを提唱し強調することで、既に歴史的友好関係にあった二国間関係を更に強化した。チリ政府は、現下の困難な状況において日本及び日本国民に寄り添うとともに、世界を代表するリーダーの償い得ない逝去に遺憾の意を表す。」

(4)キューバ貿易・外国投資大臣のチリ訪問

10日、4日～8日の週にマルミエルカ・キューバ貿易・外国投資大臣がチリを訪問し、ECLAC(国連ラテンアメリカ・カリブ経済委員会)が主催する人口・開発に係る地域会合に出席した他、アウマダ外務省国際経済関係次官、マルセル財相、企業関係者らとの各種会談を行った旨報じられた。

(5)次期駐中国チリ大使任命の撤回

本年4月にポリッチ大統領により任命され、8月1日より次期駐中国大使に就任予定であったピエロティック氏について、20日、ポリッチ大統領は同氏が中国資本企業の創設に関与している点及び同氏の家庭内虐待問題に鑑みて、次期駐中国大使任命の白紙撤回を決定した。

(6)ウレホラ外相のメルコスール首脳会合出席

20日及び21日、ウレホラ外相は第60回メルコスール首脳会合に出席するためパラグアイを訪問。同首脳会合において、メルコスールはチリにとり中国、米国、EUに次いで4番目の貿易パートナーとなっており、チリ企業の主要な投資先であるとともに、チリの中小輸出企業にとり魅力的な市場でもある」と述べた他、プエルト・バジャルタ宣言及びその行動計画に則り、太平洋同盟とメルコスールの関係強化プロセスを進展させていく関心を強調した。

(7)フエンテス外務大臣代行と中国外交部中南米局長の意見交換

21日、チリ外務省は、ヒメナ・フエンテス外務大臣代行とカイ・ウェイ(Cai Wei)中国外交部中南米局長の間で行われた意見交換に係るプレスリリースを発出。同会合では、チリにおけるワクチン管理および製造といった共通の関心分野に関する意見交換が実施された。同様に、智中二国間の政治分野および経済・通商分野における対話メカニズムに関する見直しが行われた。フエンテス外務大臣代行とカイ・ウェイ中南米局長は智中二国がさまざまなレベルで友好および協力関係を強化させていくことの重要性につき一致した。

(8)駐チリ米国大使の上院承認

22日付当地主要紙エル・メルクリオは、3年以上空席が続いていた駐チリ米国大使の任命が米国上院で承認された旨報じた。ミーハン新大使はチリとの関係において、歴史的な局面にあるチリの民主主義の擁護、米チリ両国民に裨益する機会・通商の促進、そして科学技術や再生可能エネルギーおよび気候変動問題対策の投資の推進の3点を重視していると述べた。

(9)ウレホラ外相の亜訪問

22日、ウレホラ外相はパラグアイで実施された第60回メルコスール首脳会合の帰路にブエノスアイレスを訪問し、カフィエロ亜外相と同国外務省においてバイ会談を実施。両国首脳会談において協議された智亜二国間委員会、二国間貿易、生産チェーン、環境、エネルギー・デジタル統合、再生可能エネルギー、地域情勢等に関してアジェンダを進めていく旨強調した。